

MHC松本グリンデルワルト姉妹都市交流事業

「岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング」報告概略

「岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング」は、2013年8月31日～2013年9月8日までの日程(別紙)で松本市民を始めとする参加者30名により実施致しました。参加者一行は、グリンデルワルトのシュラッピー村長ら村幹部からの歓迎を受け、スイスアルプスを代表するアイガー、マッターホルンの山麓を巡るハイキングを連日行い、岳都交流と姉妹都市交流の責任も果して参りました。



8/31 PM3:50 チューリッヒ国際空港到着。グリンデルワルト日本語観光案内所所長、安東一郎所長が出迎える。



早速、専用バスにて、安東一郎氏のガイドで、森の緑と岩峰の町、グリンデルワルトへ向かう。



夕方グリンデルワルトに到着。ホテルにチェックイン、PM7:30 夕食を摂り、ようやく疲れを癒す。



9/1AM9:00、安東氏がガイドとなり、ホテルを出発。グリンデルワルト村 1034m 東に広がる、牧歌的風景。



ホテルから徒歩で、グリンデルワルト村東側に建つ、教会の墓地を抜け、20分程でフィングシュテックゴンドラ駅に到着。ここからゴンドラで、フィングシュテック山頂 1391m へ向かう。





ゴンドラでフィングシュテック山頂 1391mへ向かう



山頂からグリンデルワルト村を一望



山頂から、ベーレック小屋まで、ハイキング。



グリンデルワルト下氷河を眼下に山腹を登る。



約2時間の登りで、ベーレック小屋に到着。登る前方に、壮大なフッシャーホーン 4274mの氷河やアイガー東壁を望む。



ベーレック小屋で、アイガー東壁と氷河を望みながら、昼食を兼ねて休憩。地元青年のアコーディオンの演奏を聴き、スイス気分を味わう。全員で記念撮影をして、再びハイキングで、フィングシュテックへ下る。



フイングシュテックゴンドラ駅からホテルへ戻る途中、歴史博物館を訪ねてみる。日本人牧有恒氏が、1921年アイガー・ミッテルレギ稜(北東稜)初登攀した偉業を称えたコーナーが設けられていた。



9/2 朝焼けの朝を迎える。早めに朝食を済ませ、AM8:00 ガイドの安東氏と共に、全員ホテルを出発。



8:17 発の登山電車で出発。一駅で下車し、ゴンドラでメッリッヘン山頂 2227mへ向かう。



山頂からは、聳え連なる白銀の峰々が望まれる。



メリッヘン山頂駅 2227mで記念撮影。アイガー3970mを眼前に望む。日本の高山花に似た花々が咲く。



アイガー北東側にベッターホルン 3701mが聳え、その麓の眼下にはグリンデルワルトの村が広がる。メリッヘンからアイガー、メンヒ 4107mなどの峰を望みクライネシャイデックまで、起伏の少ない山腹道を行く。



途中、アイガー北壁を正面に望む場所で、休憩する。参加者の写真のシャッター音が忙しく響く。アイガー北壁は、ヨーロッパアルプス三大北壁の一つとされ、世界のクライマーの憧れの壁と言われている。1時間30分程のハイキングでクライネシャイデックに到着する。



クライネシャイディックから登山電車に乗り、アイガーをトンネルで縦断して、ユングフラウヨッホへ登る。途中降車して、北壁の壁をガラス戸越しに、眼下に望む。



アイガーとメンヒの間の壁窓から望むアルプスの景観。ユングフラウヨッホ到着、世界遺産アレッチ氷河。



ユングフラウヨッホ内の氷河のトンネルを歩く。冷風吹く外へ出ると、ユウングフラウ 4158mが、私達のすぐそばに、聳えていた。建物に戻り、遅い昼食を摂り、暖かいスープで体を温める。



昼食後、登山電車でユングフラウヨッホを出発。アイガーグレッチャー駅で下車して、アイガー北壁直下のハイキングコース、アイガートレイルをアルピグレンまで、約2時間30分歩く。



アイガー北壁直下の砂礫に咲く白い花



アイガー北壁直下を歩く



アイガー直下から望むアイガー北壁



アイガートレイルを歩き、アルピグレンへ下山を急ぐ



9/3、快晴の朝。AM8:30 ガイドの安東氏と共にホテルを出発。徒歩でフィルストゴンドラ駅へ向かう。



ゴンドラでフィルスト山頂 2168mへ登り、そこからハイキングを始める。バツハアルプ湖で小休憩。湖面に白い峰が美しく映っている。そこから山道を、ホテルの建つファウルホルン 2686m山頂を目指して登る。



ファウルホルンで昼食を兼ねて休憩後、下山を開始、バスの待つブスアルプへ向かう。午後の穏やかな日差しを受けて、放牧場の草地を、展望を楽しみながら降りていく。昨日、近くまで登ったアイガー、メンヒ、ユングフラウの峰々が正面に聳え連なっている。PM3:00 ブスアルプ到着。バスに乗り換え PM4:00 ホテルへ帰還する。



PM6:00 夕陽の射し込むホテルレストランのテラスで、村長ら村幹部が出席して、グリンデルワルト観光局主催による歓迎会が開催される。シュラッピー村長、鈴木理事長の岳都交流の挨拶が交わされ、スイスワインで乾杯！する。



村長からグリンデルワルトの写真集、バッジ、ペンなどが記念に贈られる。夕食会でも乾杯が繰り返された。



ブルーノ観光局長も各席を廻り挨拶する。宴たけなわの中、鈴木理事長エーデルワイスをハーモニカで奏る。



さらに、日本人皆で安曇節を唄い「・・チョコサイコラホイ！」と合唱。シュラッピー村長もスイス民謡を返歌として歌う。そして、2年後にまた、皆が岳都交流に来ることを約束して、終宴とした。



9/4AM8:30 専用バスでホテルを出発。途中バスごと電車に乗り込むカートレインを利用し、ティーシュまで行く。ティーシュで電車に乗り込み、昼前マッターホルンを望むツエルマットへ到着する。



大きな荷物はホテルに預け、村内で昼食を摂り、休憩後、登山電車でゴルナーグラート 3089mへ登る。ここからは、4000m級の白銀の峰々を間近に望む事ができる。



モンテローザ(左)4634m リスカム(右)4527m



ブライトホルン 4164m



雄大な姿 マッターホルン 4478m



パイスホルン 4505m(右)



下山は、ゴルナーグラートから、天を突く雄大なマッターホルン 4478mを望みながら、リッフェル湖畔を巡り、1時間 30 分のハイキングをして、次の駅リッフェルベルク駅まで向かう。



リッフェルベルク駅から登山電車に乗り、ツェルマット 1620mへ下山する。ツェルマットでは、旧町並みを巡り、PM6:00 今日宿泊するホテルへ到着する。



9/5 朝陽に染まるマッターホルンを望む快晴の朝を迎える。AM8:30 ホテルを出発。今日はスネガ展望台からロートホルン 3108mへ、ロープウェイを乗り継いで登る。ロートホルンからは、スレガへ下るハイキングを変更し、オーバーロートホルン登山を目指すこととする。



ロートホルンから、オーバーロートホルン 3414m山頂目指して登山開始。登る道端には、エーデルワイスの花が今を盛りと咲いていた。小さくて白い雪の花。いつまでも咲き続け、私達を見守っていてほしいと願う。



山腹を巻くように岩礫の道を登り続けること 1 時間 30 分、オーバーロートホルンの岩盤の山頂に到着する。山頂からは、スイスアルプスの大展望が広がっていた。



山頂からは、西方にひときわ高くマッターホルン 4478mを望む。



白銀の峰々を背景に下山。



ブライトホルン 4160mを背景に下山していく。



道端に咲く、色とりどりの花々



急斜面に取り付けられた、ロープ

ロートホルンからロープウェイでセネガ展望台へ降下し、ここで遅い昼食と休憩を摂る。セネガからは、ロープウェイで一気に、ツェルマットへ降り、この後は、自由時間、自由夕食とする。希望者は、マッターホルン博物館を訪ねることとする。



1965年7月14日、マッターホルンに初登頂した、英国人エドワード・ウィンパーに敬意を称し、彼が常宿としていた、ツェルマットのホテル、モンテローザ壁面に、彼のレリーフが取り付けられている。



マッターホルン博物館を訪ねると、昔のツェルマットの家並みが再現されている。エドワード・ウィンパーの初登頂の下山時、互に結んでいたザイルが切れて4人のクライマーが落下するという遭難事件が発生する。



エドワード・ウィンパーは、これらの遭難事件を含め、アルプス登攀の報告を、挿絵を入れて詳しく記載し、登山をしてみたいという人達へ役立つことを願い、「アルプス登攀記」と題した本を出版。出版後直ぐに評判となり、改訂、増刷され、今日まで山岳図書の古典として、読み継がれている。



9/6 この日もマッターホルンが眩しい、快晴の朝を迎える。ツエルマットからロープウェイを乗り継ぎ、ロープウェイで行くヨーロッパ最高所グレッチャーパラダイス 3883mへ登る。



グレッチャーパラダイスは、一年中スキーのできる氷河の世界でもある。又ここからは、ガイドを伴って、ブライトホルン 4164mへ登ることもできる。



グレッチャーパラダイスから望む、マッターホルン東壁。最高点 3883mでの記念撮影を全員で行う。「バンザイ！」階下のレストランで、昼食を摂りながら休憩する。

休憩後、ロープウェイで、トロケナステック 2939mへ降り、そこから、マッターホルン東壁を眺めながら、2時間ほどハイキングをして、シュバルツゼーまで下山をする。



トロケナーステック 2939mから、ハイキング開始。マッターホルン東壁を間近に望むと首が痛いほどだ。



シュバルツゼーはもうすぐだ！。地面には、イワギキョウに似た花が咲いていた。シュバルツゼー駅から、ロープウェイに乗り込み、PM4：00には、ツエルマットのホテルに到着する。

9/7 夜明け前、雨が降り、マッターホルンは厚い雲に隠れていた。AM7：00 ホテル出発。テーシュで専用バスに乗り換え、PM12:00 過ぎチューリッヒ空港到着。LX160 に搭乗し、PM13：00 成田へ向け離陸する。9/8AM7：50 成田到着。荷物を受け取り、税関を通過後、AM8：30 入国ロビーで解散の挨拶を交し合う。ここからは、貸切バスやタクシーなどを使い、午後には全員無事帰宅することができました。



「MHC 登山講習で北アルプス等において体力調整してきた参加者は、スイスアルプスを大満喫したハイキングの旅ができました。そして、皆様のご理解とご協力で、グリンデルワルト村との姉妹都市交流の挨拶の責任も果たし、岳都交流も深めることもできたと思います。ありがとうございました。」

「岳都グリンデルワルトとスイスアルプス展望ハイキング」責任者
NPO 法人松本ヒマラヤ友好会 理事長 鈴木 雅則